

輸入米が表舞台登場 ネットやスーパー好調

朝日新聞
3月21日

組合員のみなさん 国労・ユニオン組合員のみなさん

朝日新聞「にっぽんの農業」によると、埼玉県内の倉庫に積まれていたコメ袋（米国産）がどんどん減り、販売店では「こんなに売れるとは思わなかった」と話しており、関東から東北のお客さんが多いとのこと。個人消費だけではなく、回転ずしや牛丼など外食業界でも導入しだしているそうです。

このコメは、政府が無関税で輸入している ミニマムアクセス米 と呼ばれていますが、日本のコメ農家を守るために出回ることがなかったとのこと。その輸入米が好調な理由として、福島第一原発事故による放射能汚染の心配と、飲食店の低価格志向があげられます。

日本は、アメリカの強い意志によって T P P 加盟のための実質的な交渉に入ろうとしています。だから、朝日新聞の記事とも無関係とは言えません。農産物の自由化を求められる T P P の本格交渉を前に「うまくて安い輸入米」を宣伝することで、「高い国産米よりも…」としようとしているのです。T P P は日本のコメ農家にとって米価下落と廃業という切実な問題なのです。

みなさん T P P は他人事 ではありません

私たち J R 東海にとっても、T P P は無関係ではなさそうです。T P P の作業部会の議題の一つに「労働規制や環境規制の調和」があります。T P P によって加盟国から低い給料で働く人が、たくさん日本に来ることで、最初に起るのは、日本の非正規社員の失業と給料の引き下げです。その次は、連動して正社員の給料の引き下げや業務の効率化が考えられます。

J R 東海も例外と考えるいられなくなります。J R 東海が、外国人を社員として採用しないとしても、給料が安くても働く、という人が外注会社に入ることによって、私たち社員も例外とされず、給料の引き下げや労働時間や休日数の見直し等によって、労働条件が悪くなることが考えられます。

**現状をみる限りは、T P P 反対、原発反対と言わなければなりません
他人事とせず、国会での議論や政府の動向をしっかりと見極めましょう**